

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：多文化共生センター大阪

1. 事業の概要

事業名称	日本に暮らし、地域に根ざす外国人のための「生活の漢字」学習支援
事業の目的	日本に定住する予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、日常生活において必要な漢字を認識し、自律学習の習慣を身につけてもらうことを目標とする。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	現在の大阪市の状況 基礎日本語会話については、公的機関により教室が開催されている。しかし、文字習得に関しては、生活言語を基本とした基礎レベルの文字教育を行う教室がない。また民間の日本語学校においては生活言語が基本となっておらず。受講料も高価である。一方で、地域の日本語教室では、会話が中心の学習が行われており、漢字はあまり学習しないか、適切な指導がなされていないため、漢字学習の挫折につながっている。また多くが、専門家によって開催されている教室ではないという状況にある。
事業内容の概要	日本での永住も視野に入れ地域に定住する外国人、特に、子育て中の人も含む日本人配偶者等を対象に、託児環境を整備し、子連れでも参加しやすいようにする。また問題を抱えている外国人には、各相談機関へ繋げるようにする。開催する教室では、漢字学習入門レベルと、ある程度学習が進んだレベルとに分け、各レベルにあった漢字教育を提供する。日本で生活を送る上で必要な漢字語彙に加え、子育て世代が必要な漢字語彙も取り上げる。さらに、受講者が講座終了後も引き続き漢字を学習していけるように、漢字の体系を知るなど、自律的な学習能力を養成するプログラムを組み入れる。
事業の実施期間	平成27年 4月～平成 28年 3月 (12 か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	中村満寿央	多文化共生センター大阪
2	岡本和夫	大阪市立総合生涯学習センター
3	野村京美	大阪市立総合生涯学習センター
4	棚田洋平	一般社団法人 部落解放・人権研究所
5	永井慧子	大阪にほんごボランティアネットワーク
6	新矢麻紀子	大阪産業大学
7	新庄あいみ	大阪大学
8	御子神慶子	財団法人海外産業人材育成協会
9	川島孝子	元 とよなか国際交流協会
10	佐藤千佳	多文化共生センター大阪



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年5月18日(水) 10:30～13:00	2時間半	大阪市立総合生涯学習センター	川島孝子 佐藤千佳 新庄あいみ 棚田洋平 永井慧子 御子神慶子	事業開始準備 1. 漢字教室に関して 2. 養成講座に関して 3. 大阪市教育委員会との交渉に関して 4. 全体運営委員会の日程相談 5. 連続講座の予定
2	平成28年6月8日(火) 13:00～15:30	2時間半	大阪市立総合生涯学習センター	高貫順子 野村京美 栗田光 中村満寿夫 川島孝子 佐藤千佳 新庄あいみ 永井慧子 御子神慶子	1 全体運営委員会次第の打ち合わせ 2 事業開始にあたっての全運営委員による会議 3. 実行メンバー（川島・佐藤・新庄・永井・御子神）による漢字教室開始準備会議
3	"平成28年6月25日(火) 13:00～15:30"	2時間半	大阪市立総合生涯学習センター	川島孝子 新庄あいみ 棚田洋平 永井慧子 御子神慶子	1 漢字教室について 2 養成講座について
4	平成28年7月26日(火) 11:00～13:30	2時間半	大阪市立総合生涯学習センター	川島 佐藤 新庄 棚田 御子神	1 漢字教室進捗状況報告 2. 養成講座チラシ、内容について

5	平成28年10月1日(土) 9:30~12:00	2時間半	大阪市立総合生涯学 習センター	川島 佐藤 新庄 棚田 御子神	1 漢字教室 2. 養成講座開始準備
6	平成28年12月17日(土) 9:30~12:00	2時間半	大阪市立総合生涯学 習センター	川島 佐藤 新庄 永井 中村 御子神	1 漢字教室終了報告および振り返り
7	平成28年12月20日(土) 9:30~12:00	2時間半	大阪市立総合生涯学 習センター	川島 佐藤 新庄 棚田 御子神	1 養成講座報告、連続講座終了報告およびふりかえり
8	平成29年3月13日(月) 9:30~12:00	2時間半	大阪市立総合生涯学 習センター	川島 佐藤 新庄 御子神	1.事業全体の振り返りについて 2.会計報告
9	平成29年3月21日(火) 13:30~16:00		大阪市立総合生涯学 習センター	竹内愛実 野村京美 栗田光 中村満寿夫 川島孝子 佐藤千佳 新庄あいみ 棚田洋平 永井慧子	1 事業報告 2 課題検討

(2) 事業の実施体制

事業運営方針の決定など、事業の根幹をなす事項については、永井、御子神、新庄、新矢、川島が行う。事業における実務的な作業(教室補助および会計事務)は川島、その他の実務は新庄、御子神が担当する。

(3) 地域における連携体制

大阪市立総合生涯学習センターに、教室の優先受付、教室問い合わせ及び申し込みの受付など教室の運営管理面で協力を得た。また、おおさか・識字にほんごセンターのデータを活用し、大阪市内にある日本語教室や国際交流協会へ教室開催の募集チラシを送付した。送付先の各団体では外国人住民への教室参加の広報に協力を頂いた。「大阪市立子育ていろいろ相談センター」に一時保育の保育士さんの派遣を依頼した。さらに、外国人から相談があったり、必要と思われる事項が生じた場合は、各機関へと繋げるようにした。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:定住外国人の社会参加に繋がる「生活の漢字」教室～ひらがな・カタカナ・漢字の基礎から、日本語の読み書きへ～】									
目的・目標	学習者が日常生活において、必要な漢字を認識すること、自立して学習できるようになることを目標とする。留学生とは異なり、いわゆる「生活者としての外国人」とよばれる人たちは、日本語を生活の中で身につけているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。								
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きを習得したいと思っている者 ・ひらがなとカタカナの読み書きがある程度できる者 ・簡単な日本語の会話ができる者 ・大阪市主催の「基礎レベルの日本語教室」を修了した者など ・保育が必要な者も含む 								
取組の内容	日本で生活していくうえで必要な漢字を学習し、参加者の生活の質の向上を目指した。参加者は非漢字圏出身の外国人住民を主な対象とし、子育て中の人でも参加できるよう託児環境を整備した。また、パソコンや携帯電話を使用し、漢字学習を身近なものにし、日本語による他者とのつながりを身に付け、自立した社会行動ができるようになるよう目指した。「ひらがな・カタカナ」の理解確認からはじめ、日常生活で見かける漢字語彙を学びながら、「文章の読み書き」につながる学習を行った。								
実施期間	平成28年6月28日～平成28年11月15日			曜日・時間帯		火曜日(13:30～16:45)			
開催回数	全60時間(1回3時間×20回)			開催場所		大阪市立総合生涯学習センター			
参加者	総数65人 (日本語学習者55人、指導者・支援者10人)			使用した教材・リソース		『生活の漢字』、『新にほんご漢字み～つけた』、その他自主材料			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	8	12	3	5	1	3	2	0	10
スペイン2人、スリランカ1人、アメリカ2人、台湾4人、ナイジェリア1人、サウジアラビア1人									
カリキュラム案活用	カリキュラム案で取り上げられている漢字の認識と直結した素材は抽出して内容に組み入れる。さらに、本講座のカリキュラムを「漢字学習支援のためのカリキュラム案」作成につなげるよう心掛けた。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成28年6月28日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	35	開講式	入門クラス…開講式/レベルチェック 初級クラス…開講式/レベルチェック	新庄	オーラヌット 掛橋 永井	
2	平成28年7月5日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	33	カタカナ	入門クラス…カタカナを読む・書く 初級クラス…カタカナを読む・書く	御子神	オーラヌット 掛橋 田中	
3	平成28年7月12日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	29	カレンダー	入門クラス…暦/短文入力 初級クラス…暦/短文入力	御子神	オーラヌット 掛橋 田中	
4	平成28年7月19日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	28	カレンダー	入門クラス…前回の復習/和暦 初級クラス…前回の復習/数字の 入った文を書く	御子神	オーラヌット 掛橋 川島	
5	平成28年7月26日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	24	ベーシックストローク	入門クラス…ベーシックストローク・漢字 学習アンケート 初級クラス…ベーシックストローク・漢字 学習アンケート	新庄	オーラヌット 川島 佐野	
6	平成28年8月2日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	25	駅	入門クラス…構内表示、路線図を読む、路線 図の検索方法と練習 初級クラス…構内表示、路線図の検索方法と 練習	新庄	オーラヌット 川島 田中	
7	平成28年8月9日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センター第5研修室	23	駅の復習 漢字の体系化	入門クラス…復習、音読みと訓読み、部首、 文章を読む 初級クラス…復習、音読みと訓読み、絵から できた漢字、短文作文	新庄	オーラヌット 川島 掛橋	
8	平成28年8月23日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	25	病院	入門クラス…「病院」でよく使用する漢字、文 を読む 初級クラス…「病院」でよく使用する漢字、救 急車について、文を入力して、読む	佐野	オーラヌット 川島 掛橋	
9	平成28年8月30日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センター第5研修室	23	病院の漢字復習	入門クラス…漢字を書く・読む 初級クラス…漢字を書く・読む	佐野	オーラヌット 川島 佐藤	
10	平成28年9月6日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	26	薬	入門・初級クラス…薬・調剤薬局・処方 箋・薬袋の読み方、風邪薬と痛み止めの 用法、くさかんむりの漢字について、水 (音訓のまとめ)	新庄	川島 オーラヌット 掛橋	
11	平成28年9月13日 (木) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センター第5研修室	25	住所を書く	入門・初級クラス…住所を書く	新庄	川島 オーラヌット 佐野	
12	平成28年10月25日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センター第5研修室	16	復習	入門クラス・初級クラス…復習(漢字を書き出 し、読みをつける、声に出して読む)、漢字クイ ズ ※台風のため9/20は中止。10/25に補講	掛橋	棚田 田中 永井	
13	平成28年9月27日 (火) 13:30～16:45	3	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	25	履歴書 申込書	入門クラス…履歴書を理解し、情報を書き 込む 初級クラス…履歴書を理解し、情報を書き 込む、書いた内容を話す	掛橋	川島 オーラヌット 佐藤	

14	平成28年10月4日 (火) 13:30~16:45	3	大阪市立総合 生涯学習セン ターメディア研 修室	26	災害	入門クラス…災害情報を得る 初級クラス…災害情報を得る、書く	御子神	川島 オーラヌット 掛橋
15	平成28年10月11日 (火) 13:30~16:45	3	大阪市立総合 生涯学習セン ターメディア研 修室	19	災害	入門クラス…台風に関する漢字と文 初級クラス…台風に関する漢字と文	御子神	川島 オーラヌット 掛橋
16	平成28年10月18日 (火) 13:30~16:45	3	大阪市立総合 生涯学習セン ターメディア研 修室	22	入管	入門クラス・初級クラス…大阪入国管 理局、在留カード	佐藤	川島 オーラヌット 掛橋
17	平成28年10月25日 (火) 13:30~16:45	3	大阪市立総合 生涯学習セン ターメディア研 修室	21	入管	入門クラス・初級クラス…在留期間更 新許可申請書	佐藤	川島 オーラヌット 新庄
18	平成28年11月1日 (火) 13:30~16:45	3	大阪市立総合 生涯学習セン ターメディア研 修室	25	銀行	入門クラス・初級クラス…銀行の漢字 ををパソコンで見る・入力する	御子神	川島 オーラヌット 佐藤
19	平成28年11月8日 (火) 13:30~16:45	3	大阪市立総合 生涯学習セン ター第5研修 室	20	銀行	入門クラス…通帳・ATMの漢字を読む、 各自の銀行支店名を書く、振込の手順を 読む 初級クラス…通帳・ATMの漢字を読む、 各自の銀行支店名を書く	御子神	川島 オーラヌット 掛橋
20	平成28年11月15日 (火) 13:30~16:45	3	大阪市立総合 生涯学習セン ターメディア研 修室	23	修了式	能力評価テスト、アンケート、各自挨拶	新庄	川島 オーラヌット 掛橋

(1) 特徴的な活動風景（2～3回分）

○取組事例①

【第6、7回 2016年8月2,9日】

「駅」というテーマで、教室周辺の駅を中心に大阪のJR、地下鉄、私鉄を利用する際に必要な語彙学習、また利用方法について学習を行った。教室の参加者は一人で公共交通機関を使って移動したことがないという人も多い。駅の語彙や利用方法についての学習はかれらの生活に役立ったようで、修了式では印象に残った授業というコメントをもらったり、アンケートにも役立った授業という感想をもらった。何よりも「一人で出かけられるようになりました」というコメントが複数あったのをうれしく思う。語彙が多いので学習が難しい面もあるが、かれらが目にする語彙を学習することで、学習したことが役に立つという経験をしてもらい、更に勉強しようという気持ちを持ってもらうという、教室のコンセプトを体感できる活動となったと思う。（新庄あいみ）



○取組事例②

【第16,17回 2016年10月18,25日】

「入国管理局」というテーマで、大阪入国管理局で見かける漢字、また在留カード、在留期間更新許可申請書に記載されている漢字について学習を行った。入管や在留カードという本人にとって身近であるが、実際は在留カードにどのような内容が記載されているか理解していない学習者もいた。在留期間更新許可申請書については、「必要な書類だが自分で書いたことはなかったので、次回からチャレンジしたい」という声も寄せられた。本講座に参加したことにより、自分や家族の名前、住所などを漢字で記載することができるようになり、申請書だけでなく、申込書、履歴書等、自身の基本事項を書くことができるようになった参加者が多くいた。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・講座最終日にアンケートを行った。22名が回答した。アンケートの結果、授業の内容やクラスの進め方については満足度が高かった。
- ・「ひとりで出かけることに少し自信が持てるようになった。」や「ひとりで銀行に行けるようになった。」など、漢字がわからないことでひとりで行くことが難しかった行動ができようになったと回答している参加者が22名中8名にもものぼった。
- ・開講時に診断テストを実施。最終回にて同様のテストを行った結果、ほぼ全員が開講時よりも「書くことができる漢字」、「認識できる漢字」が増えていた。
- ・「続けて漢字の勉強を行いたい。」と回答している参加者が大多数で、漢字学習のニーズが高いことがわかった。

(3) 今後の改善点について

- ・「もっと書きたい」という受講生が多く、書く練習をもう少し増やす必要があることがわかった。
- ・「週1回の学習では足りない」、「パソコンで学習した内容を復習したい」という声もあり、教室での勉強は週に1度と限られた時間である為、自宅で勉強が進められるような教材の準備など工夫が必要と感じた。
- ・国際交流協会、施設などへのチラシ送付だけでなく、SNSの活用など、広く広報し、漢字学習が必要だと感じている人に情報を確実に届けられる工夫が必要である。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:①「社会参加につながる「生活の漢字」学習支援者養成講座 ②「生活の漢字」学習支援者養成出前講座】

目的・目標	「生活者としての定住外国人」にとっての「社会参加につながる漢字の習得」という観点からの、日本語学習支援をおこなうことができる人材の育成を目的とする。								
対象	日本語教室で実際に活動しているボランティアの方、またはこれから日本語教育支援をおこなおうと考えている方。								
取組の内容	①「生活の漢字」学習支援の前提となる背景・理論に関する講座、「生活の漢字」学習支援の具体的な実践とその意義を当事者の声から学ぶ講座、計5回の養成講座を実施。②①の内容を簡略にして、「出前」講座というかたちで、受講を希望する団体を対象に1日で実施。								
実施期間	①平成28年10月15日、22日、29日、11月5日、12月17日 ②平成29年1月14日、29日、2月25日			曜日・時間帯		①土曜日(13:30~16:30)、②土or日曜日(10:00~16:00)※休憩1時間			
開催回数	全30時間 (①1回3時間×5回、②1回5時間×3回)			開催場所		①大阪市立総合生涯学習センター研修室、②出前講座受講団体の指定する会場			
参加者	総数 101人(延人数) (日本語学習者_____人、指導者・支援者101人など)			使用した教材・リソース		自主教材、『新にほんご「生活の漢字」漢字みーつけた』(アルク、2011年)等			
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1								
日本100人									
カリキュラム案活用	カリキュラム案の「生活者の必要」「生活者の視点」というコンセプトは、本事業で行う漢字学習支援においても同様である。本講座は漢字学習に特化しているが、漢字を抽出する場面は、カリキュラム案が目標としている場面と共通しているので、カリキュラム案を受講生に紹介し、参考にももらった。								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成28年10月15日(土) 13:30~16:30	3	大阪市立生涯学習センター	13	日本における識字問題とは?	本講座の前提となる日本の識字問題について、識字学級や夜間中学、日本語教室の現状などをとおして学ぶ。	棚田洋平	新庄あいみ/御子神慶子
2	平成28年10月22日(土) 13:30~16:30	3	大阪市立生涯学習センター	11	「生活の漢字」とは?	定住外国人の文字学習について、「生活の漢字」という観点からとらえ、その支援のあり方やシラバスのつくり方を学ぶ。	御子神慶子	新庄あいみ/永井慧子
3	平成28年10月29日(土) 13:30~16:30	3	大阪市立生涯学習センター	12	学習者の声を聞く外国人が感じる漢字学習の難しさ	実際に「学習者」として漢字教室に通っていた/通っている当事者(外国人)の声を聞くことをとおして、漢字学習支援の意義と課題について学ぶ。	佐藤千佳/漢字教室学習者(2名)	新庄あいみ/御子神慶子
4	平成28年11月5日(土) 13:30~16:30	3	大阪市立生涯学習センター	13	「生活の漢字」学習支援の方法	漢字学習支援にかかわる学習支援活動や教材づくりについて、具体的な実践をとおして学ぶ。	新庄あいみ	棚田洋平/御子神慶子
5	平成28年12月17日(土) 13:30~16:30	3	大阪市立生涯学習センター	26	多文化共生の地域の未来	地域における多文化共生社会の実現のために必要となる、考え方や取組みについて学ぶ。	田村太郎	棚田洋平/新庄あいみ
6	平成29年1月14日(土) 10:00~16:00	5	新長田勤労市民センター	16	日本における識字問題とは?/「生活の漢字」とは?/漢字学習支援の紹介と実践	上記の1, 2, 4の内容	棚田洋平/御子神慶子/新庄あいみ	川島孝子/棚田洋平/御子神慶子
7	平成29年1月29日(日) 10:00~16:00	5	NPO法人多文化センターまんまるあか	8	日本における識字問題とは?/「生活の漢字」とは?/漢字学習支援の紹介と実践	上記の1, 2, 4の内容	棚田洋平/御子神慶子/新庄あいみ	川島孝子/棚田洋平/御子神慶子
8	平成29年2月25日(土) 10:00~16:00	5	大阪市立生涯学習センター	7	日本における識字問題とは?/「生活の漢字」とは?/漢字学習支援の紹介と実践	上記の1, 2, 4の内容	棚田洋平/御子神慶子/新庄あいみ	川島孝子/新庄あいみ/御子神慶子

(1) 特徴的な活動風景（2～3回分）

○取組事例①

【第3回 平成28年10月29日】 第1～5回目は同じ受講者を対象にした連続講座（※第5回目のみ、受講者を別途追加募集）であったが、その第3回目では、当事業の日本語教育事業で開催している漢字教室の学習者（韓国女性2名）に、「ふだんの生活で日本語の問題で困っていること」「日本語教室に参加してよかったこと・かわったこと」などについて聞く、という内容を設定した。学習者の「生の声」を聞く機会は、講座受講者にとって意義が大きかったようで、「学習者の実際の声を聞いたことはとても貴重で学ぶことが多かったです。」「学習者の体験や思いをたくさん聞いて大変良かったです。」という感想が寄せられた。また、希望者には、養成講座開催期間中（10～11月）に、日本語教育事業で実施している漢字教室を見学する機会も設定したが、多くの受講者が参加し、実際の学習者の姿や学習活動のようすを見ることで、各講座の内容理解がより深まったと思われる。



○取組事例②

【第6～8回 平成29年1月14日、29日、2月25日】 第6～8回は、第1～5回の養成講座の内容を「出前」で実施するという事業である。今年度は3団体（NPO法人神戸定住外国人支援センター、NPO法人多文化センターまんまるあかし、クレオ大阪西・日本語交流サロン）から出前講座受講の応募があり、各団体の指定する会場にて、それぞれまる1日の行程で講座を実施した。各講座の参加者のほとんどは、それぞれの団体で日本語支援活動に既にかかわっており、内容としてはスキルアップの要素が大きかった。多くの参加者が、ふだんともに活動をしているということもあって、活動に関する問題意識の共有が前提としてあるため、グループワーク等の活動はかなり深まりがあった。また、本講座をきっかけにして、当方の事業とそれぞれの活動団体とがつながれたことも意義深く、このつながりを今後の事業活動に活かしていきたいと考えている。



(2) 目標の達成状況・成果

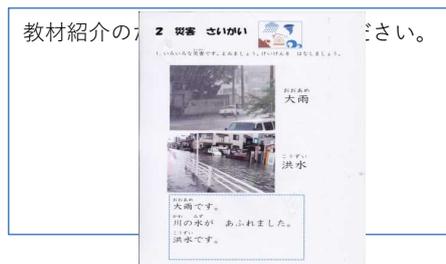
各回の講座終了後にアンケートを実施し、受講者の講座内容に対する評価や理解度、今後の日本語支援活動への影響について把握することに努めた。アンケート結果を見る限りでは、各回の講座内容に対する評価、理解度はおしなべて肯定的な意見が多く、本講座の目的・目標を達成できたと思われる。また、5回の連続・養成講座とは別途、出前講座を実施することで、講座への参加の機会をより多く設定することができた。

(3) 今後の改善点について

第1～5回の連続講座と、出前講座3回をあわせて計4回の養成講座を実施し、機会の提供はひろくできたものの、各回の参加者が10数名程度と想定していたよりも少なかった。幅広く関係各所・関係者への案内配付に努めたが、それが参加者数の増加につながらなかった。より効率的な広報活動について検討する必要がある。また、私たちが事業を展開する大阪においては、行政や市民団体などによる日本語支援ボランティア養成講座が多く実施されているため、それらとの内容の差異化をはかることも、本事業で実施する養成講座には求められる。実際に、今年度の各回の講座に参加した受講者の多くは日本語支援活動に既にかかわっており、日本語支援活動の初心者を対象とした養成講座というよりは、スキルアップ研修のような内容が必要である、ということを実感した。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：定住外国人の社会参加に繋がる「生活の漢字」教材】

目的・目標	定住外国人の社会参加に繋がる「生活の漢字」教材を作成する。		
対象	漢字を学びたいと思う定住外国人学習者(入門～初中級程度)。母語は限定しないが、ある程度ひらがな・カタカナの知識がある者を対象とする。		
教材の内容	日常生活で必要とされる漢字の入門教材、および読み書き教材として使用できる教材とした。生活場面の中の漢字語をターゲットとしているため、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案の場面に合わせて使用できる。		
実施期間	平成28年5月18日～平成29年3月21日	成果物のリンク先	
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回2.5時間 × 24回 = 60 時間分	教材の頁数	117ページ
カリキュラム案活用	「生活の漢字」は標準カリキュラム案にあるような生活場面で目にする漢字語を拾って学習するものである。標準カリキュラムで会話を学習した後、その場面で必要な漢字も学習できるように、カリキュラム案との対照表を付した。		
教材の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者といっしょに使う。 ・手順 ①テーマについて経験等を話す。②写真の中の漢字語彙を認識する。③漢字語彙の読み方を知る。読み方がわかると意味がわかる語も多いと思われるが、意味がわからない場合は意味を学ぶ。④形を認識するために書く。⑤教室から出たら、実際の生活の中で学んだ漢字を使う。 ・会話クラスで使う場合は、その会話場面でわかると良い漢字を2語ぐらい選んで勉強し、漢字への興味につなげていく。 		
今後の活用の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生センター大阪のHPで公開し、自由にダウンロードできるようにする。 ・メンバーの所属する地域の教室で使用する。 ・養成講座受講者の所属する教室に紹介し、使用を勧める。 ・地域での講座などで紹介し、普及に努める。 		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

日本に定住する予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、日常生活において必要な漢字を認識し、自律学習の習慣を身につけてもらうことを目標とする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

漢字教室及び養成講座の受講生に実施したアンケート結果及び作成した教材から本事業における目標である「日常生活において必要な漢字を認識すること、また自律して学習することができるようになること」また「漢字学習支援者の養成」は達成できたと思われる。なお、アンケートの集計結果は別に添付した通りである。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

教材を作成する際に標準的なカリキュラム案を参考にした。作成した教材に、標準的なカリキュラム案と関連する項目がある場合は、関連して学習することができるように、それを示した。また養成講座にて受講生に紹介し、活用方法を考えた。標準的なカリキュラム案について気づいた点は、標準的なカリキュラムは生活場面について様々なケースが挙げられているので参考になるが、会話の習得が主であり、読み書きについては触れられていない。今後は文字習得の側面においても標準的なカリキュラムを作成する必要があると思われる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

大阪市立総合生涯学習センターと運営面で連携、協力を得た。大阪市教育委員会生涯学習部生涯学習担当者と面会し、地域の外国人住民のための漢字学習の必要性や現状について説明を行った。また笹田氏には漢字教室の見学に来てもらい、直接外国人住民の状況について説明を行った。漢字教室の受講生には、本講座を修了後に居住地の日本語教室で継続的に学習ができるように、大阪府下の日本語教室一覧を受講者に配布した。授業でもインターネットを用い、居住地の近くにある日本語教室の検索の仕方を受講者に紹介した。養成講座の受講生には文化庁のHPから地域の日本語学習支援のための情報が得られることを説明した。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・大阪市内の識字・日本語教室と近隣の市の国際交流センターにチラシを郵送した。また、各自の関係先でも配布した。
- ・多文化共生センター大阪・大阪市立総合生涯学習センターのホームページで広報した。
- ・本事業での実践を活動に取り入れるということで、大阪市教育委員会生涯学習部生涯学習担当者の見学者を受け入れた。
- ・タイ国教育省からの見学者を受け入れた。
- ・本事業外で漢字学習支援者養成講座を行った。

(6) 改善点、今後の課題について

漢字教室においては、入門と発展クラスに分けたことで、学習者のレベルにもある程度対応はできたが、大阪市が主催の基礎日本語教と重複して参加した学習者には日本語のコミュニケーションの問題から十分に対応ができなかった。進度が遅い学習者には取り出し授業のように個別に対応する必要がある。授業回数が進むにつれ、途中からの参加者が複数名いた。周知の方法を工夫し、必要な人に情報が届くようにしたい。養成講座においては、連続講座と出前講座を行い、何れも好評であった。今後は更に養成講座がなかなか開かれない地域に出向いて行きたい。漢字学習教材は、標準カリキュラムと合わせて使用できるものを作成した。事業全体については、常時教室が設置できないことが課題である。受講生においては、昨年度漢字教室に参加していても、数ヶ月間が空くと内容を忘れてしまう人も少なくない。自分で学習を続けているものの難しい部分があるという意見もある。このように、今後は単発的な事業ではなく、複数年実施できるような形態が必要ではないかと思う。そして将来的には、諸外国のように、定住外国人が無料か格安で生活のための日本語を学べる公的な教室を望む。特に本事業の漢字教室に参加する学習者は日本人の配偶者が多く、今後も日本に住み続ける予定の人々である。このように日本社会の一員として生活する外国人のために生活に必要な日本語を学ぶ教室が求められていると感じた。

(7) その他参考資料

漢字教室、養成講座受講生アンケート集計結果